

的には国庫支出金が減額となつて
います。

次に、地方交付税は、特に前年
度は合併による特別交付税の追加
支援がありました。今年度はこれ
が減少するとともに、国勢調査
(17年10月)の人口減少による普通
交付税の減額も大きな痛手となる
ことが懸念されることです。

歳入の算定に当たっては、国の
情報等を精査し、可能な限り堅実な
歳入見込額を計上したところです。

歳出は、住民生活に直結した保
健・医療・福祉や教育の充実、地
域産業の振興、道路交通網や上下
水道等インフラ整備など経年継続
して実施している事業等について
は、適正規模の予算の確保に努め
たところです。特に、懸案であつ
た「町立北宇和病院」が、いよいよ
新年度から指定管理者(社会福
祉法人・旭川荘)による公設民営
化がスタートすることとなり、企
業会計を新設したところです。

次に、少子・高齢化への対応や
中山間地域の振興対策、IT化の
推進などこれまでの課題に加え、
地震等防災ニーズに対する危機管
理対策、町村合併後の新たな行政
課題についても所要の予算措置を
講じたところです。

しかしながら、その過程では、
歳入の減収による歳出規模の適正
化のため、厳しい査定を断行しま
した。特に普通建設事業費の単独
事業を中心に、事業の精選や緊急
度を考慮し、財源の確保と適正運

用に留意することとしたほか、物
件費、補助金、負担金等についても、
事務事業の徹底した見直しを実施
し、基本的に前年比マイナスシー
リングで計上したところです。

平成18年度当初予算の編成に当
たり、「費用対効果の原則」を考慮
し、予算執行の適正化・効率化に
努めることを最優先に掲げるとも
に、更なる、住民福祉の向上に
努めることよって、鬼北町住民
が「合併して良かった」と実感で
きるようなまちづくりを最善を尽
くしたいと思つているところです。

主要施策の概要

1 「美しい自然を 子どもたちに伝えよう」

『21世紀は環境の世紀』とも呼ば
れ、地球温暖化防止対策や資源循
環型社会に代表される環境共生型
社会の実現は、持続可能な世界を
形成するため、国全体に課せられ
た命題です。

森林に囲まれ、四万十川の源流
を持つこの豊かな自然は、先人か
ら授かった大切な財産であり、将
来にわたり残すべき貴重な特有の
資源です。そして、美しい清流と
里山の再生は町民の願いであり、
自然を愛する多くの人々の抛り所
ともなっています。

「ふるさとの美しい自然を残そ
う・創ろう・伝えよう」をスロー
ガンに、町民の高い環境意識の下、
地域に応じた生活排水対策と資源
循環型社会の形成を図り、自然環
境の保全を着実に推進します。こ
の取り組みを通じて、町全体で自
然と共生する「真の豊かさ」を次
代に引継ぎ、多様な生態系が守ら
れた自然と日本一きれいな清流が
流れる、日本の原風景を感じる美
しい郷土づくりを目指します。

(1) 適切な土地利用の推進

森林の保全を図るため、計画的
な植栽、保育、間伐などの森林施
業を通じて、森林の荒廃防止を図
り、また、遊休農地の解消、農作
業の受委託、農用地の利用集積、
中山間直接支払い制度の活用を通
じ優良農地の保全に努めます。農
地法、都市計画法等の法規制の適
切な運用と指導により、農地・森林・
自然公園区域などの適正管理と良
好な生活空間の形成に努めます。

(2) 環境保全の推進

豊かな自然の継承に向けて、町
民の高い環境意識の下にまち全体
が一体となって、美しい清流の再
生と環境共生社会の実現を図りま
す。そのため、地域単位の河川清掃、
花いっぱい運動等まち全体の環境
保全意識の向上や町民主体の環境
保全活動を促進します。また、「広
見川等をきれいにする連絡協議会」
活動の強化と連携を推進し、町独

自の水質浄化対策である環境浄化
微生物「えひめA1-1」の普及、
農業集落排水事業や浄化槽整備事
業による環境基盤整備の推進、定
期的な水質検査の実施などに取組
みます。



えひめA1-1

(3) 資源循環型社会の形成

省資源・省エネルギーの資源循
環型生活を推進するため、ごみの
減量化、再資源化など町民意識の
啓発や生ごみ処理の奨励、分別収
集に取組んでいます。今後は、廃
棄物の排出抑制(リデュース)、再
使用(リユース)、再生利用(リサ
イクル)の3R(スリーアール)の
事業の意識高揚と適切な一般廃棄
物処理の推進、不法投棄防止対策
の充実に努めます。

(4) 地球温暖化防止対策の推進

平成9年12月の『京都市議定書』